

column 《小さな歴史みつけた》6

日本初の電動エレベーター設置で電化史に残る浅草凌雲閣
～跡地の周辺は今も最も浅草らしい賑わいの地～

浅草凌雲閣は浅草花やしき（旧浅草花屋敷、1853年開園）のすぐ横にあった

本紙今週号・別コラム《現場風景・あかり光景96》のテーマでもある《第3回国勧業博覧会》での「本邦初の電車試運転」が行われた1890（明治23）年は、日本の「電化史」においても、なにかと実りの多い年だった。

いやが上にも盛り上がった。浅草凌雲閣は各階に白熱電灯（3個ずつ）が設置されたことや、11F部分の外側にアーク灯が2つ設置され、夜間のイルミネーションの役割を背負ったことなども大きな話題となった。

日本初の電気事業者《東京電燈》が発足したのは1886（明治19）年のことだった。その翌年（1887年）には、名古屋電燈、神戸電燈、京都電燈、大阪電燈などが相次いで設立されるとともに、東京電燈の初めての火力発電所《第二電燈局》が茅場町に建設された。さらにその3年後に当たる1890年には、冒頭のように本邦初の電車の試運転が行われると同時に、日本初の電動エレベーターがお目見えしたのだ。

ちなみに浅草凌雲閣は1F～10Fまでが円柱形のレンガ造り、11F～12Fは木造で望楼となっており、30倍の望遠鏡が設置されていたとされる。エレベーターは8F止まりだったが、それぞれ約3畳の広さを持ち、腰掛けや姿見などが設置され、電灯で照らされていたのだとか。あまりの人気ぶりで連日押すな押すなの人出となり、危険性が増したために電動エレベーターは、開業から半年で中止になったという。この電動エレベーター（米国製7馬力、5・3kW）は「電化史」の観点からい

えば、日本における「動力用電力供給の初の事例」でもあった。

浅草凌雲閣は関東大震災（1923年）で崩壊することになるが、電化史にはしつかり、その足跡が印されている。（未知草）